

活動 自然探索

友だちや保育者と手を繋ぎ散歩に行く。散歩先にある季節の自然に触れ葉っぱの形や感触、色などに興味を持つ。

準備したもの 散歩リュック、袋（落ち葉を入れる用）、段ボール、ラミネート、ペットボトル

○活動内容 落ち葉がたくさん落ちている遊歩道へ散歩に行く。どんぐりや落ち葉、松ぼっくりなどを集めたり触れたりしながら遊ぶ。

○保育者の問いかけやアプローチ

子どもたちと一緒に散歩に行き、子どもたちからの興味や関心に合わせた声掛けや共感をしていく。（「茶色だね～」「カサカサ音がするね～」など）後日ダンボールに落ち葉を貼る活動や、どんぐりをペットボトルに入れどんぐりマラカスを作る活動（その後リズム遊びに変化）を取り入れたり、集めた落ち葉やラミネートし、まつぼっくりを使ってモビールを作る。

○子どもの様子

園庭にあるみかんの木の変化に興味を持つ子どもも多く、葉っぱを使っておままごとを楽しむ姿もよく見られていた。暑さも落ち着き秋になるにつれて散歩に行く機会が増え、どんぐりや落ち葉に自然と興味を持っていた。落ち葉に触れると「カサカサだね～」と言いながら踏んだ時に出る音を楽しむ姿、落ち葉を集めて落ち葉シャワーをする姿、同じような形の葉っぱを集める姿が見られた。

部屋にある絵本を通じて松ぼっくりやどんぐりころころなどの歌を歌う姿も増えていた。室内で落ち葉を貼る活動やどんぐりをペットボトルに入れる活動では「拾ったやつだね」と子どもたちから話す姿もあった。ラミネートをした落ち葉を見て落ち葉の穴から光が入る様子を見て「キラキラだね～」と話している子もいた。



振り返り

暑さでなかなか散歩に行く機会が作れなかったが散歩に行くと子どもたちの五感がかなり刺激されているように感じた。また色や形、音などの変化に気づき子どもたちなりの言葉の表現で発語を楽しんでいるように感じた。その場だけでなく園に持ち帰りその後の遊びにもつなげることが出来たので良かった。